



新潟県立看護大学ニュース

2004.7 vol.5

ポルティコの広場



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

平成16年度 入学式

新年度を迎えて



新潟県立看護大学学長 中島紀恵子

平成16年4月7日、晴天のもとでの入学式において第3期生92名を新たにむかえ、本学の在校生は第1期生(3学年)から第3期生(1学年)まで、計277名となりました。キャンパスの隅々まで、学生の放つエネルギーが届くようになってきたことを実感しています。

現在、日本における看護活動の場は、病院に代表される医療分野への集中から、福祉、教育、産業、行政など多くの領域に広がっています。これに伴い、これまで以上に幅広い領域の健康問題を扱うことが期待されるようになった看護職者には、さまざまな職種と連携し、より質の高いケアの推進を企画するとともに、最適なケア技術を利用者に届けられるような医療体制・ケア体制を支えるマネジメント能力やコーディネーターとしての能力が求められるようになりました。

本学の建学の理念は、「ゆゆう・くらしづくり」です。この心は、人間

が長い歳月をかけて築き上げた生活文化から目をはなさない知的想像力と洞察力を身につけ、幅広い視野に立って看護学を探究すること、また、専門職としての技術力を身につけ、この力を地域の人々のために生かしたいと願うスピリットをもった真の看護プロフェッショナルたりうる人材を輩出していくことにあります。

私どもは、看護職者に対する社会的なニーズと本学の理念を看護学教育に体现する、さまざまな試みに着手しているところです。今年度は、第1期生(3学年)とともに、新たにPBL方式を一部取り入れた看護学演習、および約18週にわたる看護学領域別の臨地実習に臨みます。来年度の完成年次に向け、学生ひとりひとりが、「学ぶ喜び」と生涯にわたって「学び続ける意志」を得ることのできる学び舎となるよう、ますますの努力をして参ります。

第2期生・第3期生の メッセージ



第3期生(1学年)
和栗 恵子

新潟県立看護大学に入学して

私は第1志望だった新潟県立看護大学に入学することができ、とても嬉しく思っています。

入学する前は、授業にちゃんとついていけるのだろうか、友達はできるのだろうかと不安でいっぱいでした。しかし入学してみると、みんな良い人ばかりで、すぐ友達になることができ、毎日楽しくて、笑いが絶えません。また、先輩も優しく、とても頼りになります。

看護大学は高校とは違い、専門的な授業ばかりですが、先生方の授業は分かりやすく、入学前の不安は全くありません。このように良い環境の中で、自分の興味のあることを学ぶことができるという幸せを忘れずに、一生懸命勉強をし、また友達と支え合いながら、夢に向かって何事にも諦めずに、頑張りたいと思います。

これからはもっと大変になると思いますが、悔いの残らない充実した大学生活を送っていきたくと考えています。



第2期生(2学年)
石黒 朝日香

1年生を迎えて

少し緊張した面持ちで初々しく入学してきた1年生。まだ学校や友達のこと、先輩のこと、先生のこと、知らないことが多かったことでしょう。自分たちが入学した時の期待と緊張感を思い出し、私たちは先輩として温かく迎え入れようと思いました。

まずは1年生同士、そして先輩と仲良くなるきっかけを作ろうということで、1年生は全員参加、2、3年生は希望参加制の球技大会(バレーボール)を行いました。その球技大会で反省すべきところはありましたが、雰囲気よく盛り上がり、特にチーム内で友達や先輩と仲良くなって周りから声援が飛んでいて、みんな楽しんでいてくれたようなので大変嬉しく思っています。その後は授業やゼミが始まり、先生とも仲良くなり始め、サークル活動でまた友達の輪が広がり、先輩とも仲良くなって今ではすっかり学校生活にも慣れてきたようです。

もうすでに始まっている科目もあると思いますが、テストにレポートとこれからどんどん増えてくることでしょう。またこれからの大きな行事として11月に行われる大学祭があります。これに向けて着々と準備が進んでいくと思いますが、大学祭だけではなく、いろいろなことに対して全員で協力し、成功に導いていけるようにしていきたいと考えています。最後に1年生にメッセージ。先輩を有効に活用して勉強や学校生活に役立て、学校を創っていく仲間としてこれから共に楽しい学校生活を送っていきましょう。

学外オリエンテーション 報告

平成16年度学外オリエンテーションに同行して

精神看護学 講師 後田 穰

4月9日(金)に、妙高パインバレーで新入生を対象とした一泊の学外オリエンテーションが行われました。私も新入教員ということで同行させていただきました。午後1時に大学玄関に集合した一行は大型バスや中型バスなどに分乗し出発しました。まずは上越市内をぐるりと周り3年生先輩による名所史跡案内がありました。私も含めて新入生たちはいろいろ参考になったことと思います。

1時間半ほどで第一の目的地であるセミナーハウスに到着、それからグループにわかれてサバイバル・ゲームの始まりです。砂漠で生き残るために必要なものを優先順位をつけて選ぶというゲームでした。それぞれのグループでは殆どの学生が初対面ということでしたが、和気あいあいといった感じでゲームに取り組んでいました。そのあとは綱引き大会が始まり、グループごとの対抗力を競いました。しかし、必死になって綱を引く女子学生に混じった男子学生たちは本気で力を出してよいものかどうか戸惑い気味で、その様子がなかなか面白かったです。

ゲームが終わると、今度は3年生先輩10人の出番です。格好良く黒と赤のコスチュームで登場し、元気いっぱい「やさこいソーラン節」を踊り始めました。これには新入生たちも魅了されたようで、後半は先輩たちにかわるがわる踊り方を教わり、一緒に元気良く踊りを楽しんでいました。

その後、徒歩でホテルに移動し、ようやくのこと夕食にありつきやれやれといった感じです。

2日目はホテルから屋内テニスコートへ移動し、これもグループ対抗でインディアカを行いました。何かバレーボールとバドミントンを併せたような競技でしたが、さすがに若さ溢れる学生たちは呑み



難しかったサバイバルゲーム

込みも早く白熱したゲーム展開を見せてくれました。

その後、再びホテルへ戻り、昼食のカレーライスを食べた後はそれぞれバスに乗り、大学へと帰路につきました。

こうして、学外オリエンテーションは終わりましたが、私にとって92人の学生の若さに圧倒され、瞬間に時が過ぎてしまったという感じです。初めての参加でしたが、なかなか楽しいオリエンテーションでした。新入生の皆さん、お疲れ様でした。それから引率の先生方もお疲れ様でした。



熱戦の綱引き



インディアカ、決勝戦

Kapiolani Medical Center for Women & ChildrenのNICU研修記

小児看護学 講師 井上 みゆき

今回の研修は、ハワイにおいて2つの大学及び複数の医療機関で行ったが、ここでは紙面の都合から筆者の専門であるNICUでの研修について報告する。

研修まで:米国では、医療施設での研修を正式に行うには、いくつかの書類を提出しなければならず、かなり厳しく制限される。特に2003年4月1日から法律が改定され、個人のプライバシーを厳重に守らなければならず、その医療施設で働く者以外が病棟に入ることは、かなり困難となっていた。幸い、私の場合は、研修先の医師をはじめ、国内の著名な小児科医に紹介してもらうとともに、研修先に知人で看護師の赤城さんがおり、コーディネートしていただいたことで、難しい書類の提出もなく、研修が行えた。

研修施設の概要:Kapiolani Medical Center for Women & Childrenは、太平洋地域の女性と子どものケアのリーダー的役割を担っている。232床のベッドと90のbassinetを持ち、医学・看護教育病院としてハワイ大学医学部・看護学部と提携している。

Neonatal Intensive Care Unit (NICU)の特徴とケアの実際:太平洋の島々の中で、NICUがあるのは、Kapiolani Medical Center for Women & Childrenだけである。従って、例え満床だとしても重症な新生児が生まれたら子どもの入院を断ることはできない。

廊下からドアを開くと直ぐにそこがNICUになっており、保育器に入った小さな赤ちゃんが直ぐそこにいる。事務を行う女性が1人いるが、家族もスタッフも自由にそのドア1枚で行き来している。日本のように着替えも靴の履き替えもない。日本でも、昨年からは長野県立こども病院や国立成育医療センターなどではガウンへの着替えを止めている。研修先では、もう10年以上前から止めたようである。細菌検査の結果、ガウンへの着替えの有無は、感染症に無関係だったようだ。重要なことは、子どもへケアするときの手洗いだという。写真のように、スタッフナース以外は、私服を着て仕事をしている。左側はアシスタントマネージャー(副看護師長)のキャロラインで、この服装と髪型で仕事をしている。右側は赤城さん。私も私服で研修を行った。右下の写真は、NICUの中で撮影したものであり、日本ではまったく考えられない。

子どもがどんなに小さくとも、閉鎖式の保育器ではなくオープンベースを使用していた。その理由は、重症の子どもはルートが多く閉鎖式では管理しにくいというのである。赤城さんはこの考え方に反対らしく、体重や週数が小さいほど湿度を十分に保てないために、体から水分が奪われ電解質が崩れると話していた。Developmental Careでは、体位の保持はしっかりしており、NICU自体かなり暗く、モニター音はすべて消去されていた。

NICUでのミスのトップは薬であり、ミス防止と医療者の薬品の不正使用防止のために、薬品庫は担当看護師の指紋の照合を必要とし、誰が、いつ、何の薬を取り出したか、自動で記録される仕組みになっていた。

米国で新生児医療に携わる医師と看護師に取得を義務づけられている資格がある。その1つNeonatal Resuscitation Program (NRP)は、2年ごとに医師も看護師も同じ講習を受けテストに合格し取得する資格であり、NRPの資格がなければ新生児医療の現場で働くことができない。日本でもこれを導入しようとする動きがある。

おわりに:紙面の都合により、今回は研修のごく一部を報告させていただいた。滞在中、研修内容はこれでいいのか、もっと何かしなければいけないのではないかと、常に何かにせきたてられている思いがし、緊張していた。そして、常に感じていたことは、言葉の壁である。語学の奥深さも知った研修でもあった。

海外研修報告



左から、キャロライン、筆者、赤城さん

教育組織 連載③ 講座の紹介

看護基盤科学講座 基礎看護学領域

助教授 中川 泉

本学は、基礎看護学を、基礎看護学領域と実践基礎看護学領域にわけ、前者のグループを看護基盤科学講座に配置しています。つまり、看護基盤科学講座という大講座の中に、一般科目系と看護系基礎領域が入っているわけです。こうした配置が、看護学の基盤実習としての「ふれあい実習」を看護系教員と一般科目の教員全員でいっしょに担当することを可能にしています。こうしたやり方は、全国の看護系大学では類がなく、本学のユニークな特色でもあります。

基礎看護学領域は、4人の教員によって構成され、看護学の本質、歴史、活動範囲などについて看護学の基本となる事柄を教授・研究しています。担当している科目のほとんどが1年次開講で、次に担当するのが専門ゼミと看護行政論がある4年次のため、大学生生活の始めと終わりの授業で学生に出会います。大人びた4年生の中に、入学時の初々しい面影を見るなんてこともあるのではないかと楽しみにしています。

教員氏名	担当科目
教授：中島紀恵子	看護倫理・看護科学史・在宅ケア論・国際看護活動論
助教授：中川 泉	看護行政論・基礎看護学実習Ⅰ・ふれあい実習
助教授：朝倉 京子	専門ゼミ・専門実習・卒論研究
講師：大友 優子	



左より朝倉助教授、中島教授、中川助教授、大友講師

新教職員の横顔

平成16年度から、以下の方々が着任されました。

●教員(敬称略)

氏名	後田 穂 講師	菅原 峰子 助手	内藤 知佐子 助手	手島 美絵 助手	津田 さとみ 助手
講座(領域)	広域看護学(精神看護学)	広域看護学(老年看護学)	成人看護学(成人看護学Ⅰ)	広域看護学(精神看護学)	広域看護学(老年看護学)
出身地	長崎県	北海道	埼玉県	福岡県	宮城県
前職	京都大学医学部附属病院(看護師長)	北海道医療大学大学院看護学修士課程	東京大学医学部附属病院(看護師)	国立病院機構呉医療センター(看護師)	柳原病院(看護師)
趣味	旅行、特にバイクでのツーリング	食べること	お 華	舞台、ミュージカル鑑賞、ダンス	オートバイ、温泉めぐり
研究テーマ・関心領域	精神科リハビリテーション。特に認知行動療法や集団精神療法を取り入れたリハビリテーションと精神障害者の疾病認知から障害受容過程における看護。	高齢者のせん妄に対する看護	神経内科疾患をもつ患者の看護	身体合併症をもつ精神疾患患者の看護	終末期の看護。人生の締めくくりにどのような関わりができるか、学びつつ考えていきたい。
抱負・モットー	「当たっても砕けない」をモットーに、長年の臨床での経験を生かした教育ができればと思います。	学生の皆さんに負けないように、教員としての成長をしていきたいと思っています。	いろいろなことに挑戦していきたいと思っています。頑張りますので、どうぞ宜しくお願いします。		興味のあることを、積極的に行ってみようと思います。どうぞよろしく願います。

●事務局・図書館(敬称略)

氏名(部署)	渡邊 博文(事務局長)	中村 敏紀(教務係長)	小野 興正(図書学生係長)	金子 美奈(図書館職員)
出身地	三和村	上越市	妙高村	上越市
前職	福祉保健部児童家庭課(課長)	糸魚川土木事務所	上越農政事務所	民間企業(事務職)
趣味	ハイキング、ウォーキング、太極拳		囲碁、ゴルフ	洋裁、人形の洋服作り
抱負・モットー	行不由経(新潟県が生んだ偉大な漢学者である諸橋轍次氏の座右の銘であり、自分の経験からでもあるのですが、勉強や仕事、趣味や家事、あらゆる場合に、姑息なことをしては何も成しません。遠回りであっても正道を進むしかないのです)、尽誠	保健福祉の職場経験はありますが、教育現場は初めてです。保健福祉を担う人材の育成に寄与できればいいと思っています。	無理と我慢を続けられないこと。	看護大、そして図書館勤務という初めてづくしの職場で、皆様にご迷惑をおかけする点が多いと思いますが、「1年生」として精一杯がんばりたいと思っています。

看護研究 交流センター

看護研究交流センターが新体制で発足

看護研究交流センター 副センター長 教授 吉山 直樹

看護研究交流センターは地域の看護研究、交流の中心的役割をさらに強化するために抜本的に組織改革を行い、よりいっそうの効率的かつ実効的な活動が行える体制といたしました。下図に組織概略図を示します。



1. 平成15年度 海外研修実施一覧

平成15年度、以下4名の教員が中長期の海外研修を行いました。

氏名	研修目的	主な研修先	期間
野地有子 教授	日米共同研究「Women's Health and Self-Care: Focus on Menopause」の米国調査の実施	サンディエゴ大学及び関連施設	平成16年3月6日～4月6日
深澤佳代子 教授	①米国におけるリスクマネジメントの現状に関する視察 ②日米のリスクマネジメントの現状の比較 ③リスクマネジメントに関する研究の情報収集	メイヨークリニック	平成16年3月10日～3月29日
北川公子 助教授	①老年看護におけるケアシステム ②セルフヘルプグループ活動 ③高齢者のターミナルケア ④大学での看護学教育の4点についての視察・研修	ポートランド州立大学及び関連施設	平成15年12月29日～平成16年3月17日
井上みゆき 講師	①大学・大学院における看護学教育プログラム ②病院でのCNSの役割と実践 ③NICUの看護の実際 ④子どもの救急医療と看護者の役割の4点についての視察・調査	ハワイ大学及びハワイパシフィック大学	平成15年12月14日～平成16年3月11日

2. 平成16年度 科学研究費補助金交付課題一覧

平成16年度の科学研究費補助金の採用状況は以下のとおりです。今年度、新たに5件の研究が採用されました。

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究B	野地有子 継続	更年期女性の健康課題の分析と看護プログラムの開発
	北川公子 継続	特別養護老人ホームにおける痴呆高齢者の終末期の様相と看護ケアの課題
	山本淳子 新規	DVD映画を用いたCALLシステムによる看護学生のための英語教育手法の研究
基盤研究C	吉山直樹 新規	面接時の受診者(クライアント)と医療者の身体姿勢に関する行動学的研究
	加固正子 新規	看護師による小児救急「電話トリアージ・マニュアル」の有効性
	平澤則子 新規	最適化モデルからみた難病家族介護者への看護援助に関する研究
	朝倉京子 継続	我が国の看護学領域に対するジェンダー分析と、それに基づく看護科学試論の作成
若手研究B	阿部正子 継続	体外受精を治療している女性の治療を継続する意思決定の分析
	斉藤智子 新規	介護保険制度下のケアマネジメントにおける介護支援専門員と保健師の協働

トピックス

トピックス

3. 授業満足度調査の実施

最近、日本の大学における教育のあり方が問われ、教育方法の見直しと改革が声高に叫ばれています。何が問題なのかを知るための基となるデータの1つは、一番身近にいる教育を受ける側の学生の意見の中にあるのではないのでしょうか。そこで全国どこの大学でも学生による授業評価が実施されてきています。本学では「学生による評価」というよりはむしろ「学生の満足度」を知りたいという意図から、平成15年度後期授業を対象に「学生による授業満足度調査」を試験的に実施しました。調査対象科目および対象教員は、1年生に対し16科目41名、2年生には15科目28名でした。調査の実施率は1年生90.2%、2年生100%でした。参考になる意見、厳しい意見等様々でしたが、これらを受けて各教員は授業改善に取り組んでいるところです。引き続き今年度も調査を実施する予定ですので、学生・教員共々ご協力をよろしくお願い致します。

(FD委員長 関谷伸一)

4. PBLの開始

平成16年度前期開講の看護学演習の一部に、PBLチュートリアル方式が導入されました。Problem Based Learning (略してPBL)方式は、最近多くの大学で導入されている教育方法の1つです。少人数のグループに課題を与え、学生たちが問題点や疑問点を探求していく方法で、従来の知識伝授型と違う課題探求型授業といえます。本学では、昨年度からPBLについての研修会を開催し、さらに「PBLチュートリアル運営会議」を立ち上げて準備を進めてきました。そして本年度4月から、3年生92名を10グループに分け、演習室10部屋を用意し、基盤科学教員も含め46名の教員にチューターを依頼しました。成人・母性・小児・地域・老年・精神の各看護学領域毎にその一部をPBL方式とし、残りは従来方式の演習としました。すでに母性、小児、成人、老年の領域で開始され、課題に立ち向かう学生たちは生き生きとして見え、また学生からも好評です。今後、効果や課題についても学生や教員の意見を聞きながら検討していきます。今年度の試みが本学に根つき、ますます発展してくれることを願っています。

5. 大学施設の整備状況

平成15年度に、多くの部署で施設設備が整備・改善されました。

1. PBLチュートリアル授業対応の演習室10部屋確保
2. 成人・老年看護学実習室、基礎看護学実習室の改修
3. 図書館内利用ノートパソコン用コンセント設置・天井扇取り付け・新聞閲覧台設置とブラインド取り付け・返却ポストの設置
4. 学内バリアフリー化(図書館入り口の自動ドア・非常口・スロープ、点字ブロック、点字表示等)
5. 食堂の照明灯増設・給茶器増設
6. 男子学生更衣室整備 など

厳しい予算のなかではありますが、関係者の工夫と努力により、このように懸案だった多くの点が改善されました。大学の施設設備にはまだ不十分・不便なところがあるかと思いますが、一つ一つ見直しが進められています。

1. オープンキャンパス情報

新潟県立看護大学の概要や来年度の入試予定を受験生の皆さんに知っていただくため、今年も下記のとおりオープンキャンパスを開催します。お誘い合わせの上、ぜひ御参加ください。

開催日時

第1回:平成16年7月29日(木) □ 各回とも13:00~16:00(約3時間)の予定です。
第2回:平成16年8月4日(水) □

内容

①大学の概要 ②平成17年度入試の予定 ③体験学習 ④施設案内 ⑤個別相談

参加方法

参加希望の方は、事前に「氏名」、「高校名」、「参加希望日」、「個別相談希望の有無」を、電話又はFAX、メールにて、左記までお知らせください。

※開催1回につき120名程度を定員としますので、本学で参加日を調整させていただくことがあります。



PBL風景1: ホワイトボードが大活躍



PBL風景2: 討論は時に厳しく、時に楽しく

入試関連情報

電話 025-526-2811
FAX 025-526-2815
E-mail kyoumu@niigata-cn.ac.jp

2. 平成17年度 3年次編入学試験の概要

今年度から、新潟県立看護大学第3学年への編入学試験を行います。概要は以下のとおりです。お問合せ、募集要項の請求は本学教務学生課教務係(電話 025-526-2811)までご連絡ください。

募集人員 10名

出願資格 次の各号のすべてに該当する人に出席資格があります。

- (1) 看護系短期大学を卒業した者(平成17年3月卒業見込みの者を含む)、または、学校教育法第82条の10の規定に基づき看護系専門学校(専修学校専門課程)を卒業した者(平成17年3月卒業見込みの者を含む)。ただし、学校教育法第56条に規定する大学入学資格を有する(見込み)者に限る。
- (2) 看護師免許取得者(平成17年取得見込みの者を含む)

試験科目等	試験科目	看護学・英語・面接
	試験会場	新潟県立看護大学
	出願期間	平成16年8月2日(月)～8月9日(月) [必着]
	試験期日	平成16年9月8日(水)
	合格発表	平成16年9月17日(金)



3. 平成17年度 入学試験の概要

■募集人員

入学定員	特別選抜入試		一般選抜入試	
	推薦入試	社会人選抜入試	前期	後期
90名	30名	若干名	50名	10名

※一般選抜入試前期試験の募集人員には、社会人特別選抜の若干名を含む。

■試験科目等

区分	特別選抜入試		一般選抜入試	
	推薦入試 (高等学校推薦)	社会人特別選抜 (自己推薦)	前期	後期
個別試験科目	小論文(英文資料の読解を含む)、面接		小論文、面接	
試験会場	新潟県立看護大学			
出願期間	平成16年10月25日～11月2日		平成17年1月24日～2月2日	
試験期日	平成16年11月20日		平成17年2月25日 平成17年3月14日	
合格発表	平成16年11月29日		平成17年3月17日 平成17年3月20日	

※一般選抜入試を出願する方は、平成17年度大学入試センター試験で本学が指定する教科・科目(5教科6科目)を受験する必要があります。詳しくは、教務学生課教務係(電話 025-526-2811)までお問い合わせください。

4. 平成16年度 入学者(第3期生)の概要

■選抜区分別の入学者の状況

選抜区分	選抜実施日	募集人員	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男性
推薦	H.15.11.30	30名	51名	31名	1.65	31名	31名(100%)	0名(0%)
社会人特別選抜		若干名	6名	4名	1.50	3名	3名(100%)	1名(33%)
一般選抜(前期)	H.16.2.25	50名	122名	50名	2.44	48名	31名(65%)	6名(13%)
一般選抜(後期)	H.16.3.12	10名	32名	10名	3.20	10名	9名(90%)	1名(10%)
合計		90名	211名	95名		92名	74名(80%)	8名(9%)

■都道府県別入学者数 (出身高校所在地)

女性…84人
男性… 8人



一般公開講座

受講料
無料

「ナイチンゲールの時代から現代看護を読む」

開催日時(平成16年)	テーマ	講師
第1回 6月26日(土) 13:00~14:30	ナイチンゲールの看護思想Ⅰ	小南 吉彦 (こみなみよしひこ) ナイチンゲール看護研究所所長
第2回 6月26日(土) 14:45~16:15	ナイチンゲールの看護思想Ⅱ	
第3回 7月31日(土) 13:30~15:00	ナイチンゲールの人間観と教育	山本 利江 (やまもととしえ) 千葉大学看護学部助教授
第4回 8月21日(土) 13:30~15:00	ナイチンゲールの時代と女性	水口 陽子 (みずぐちようこ) 新潟県立看護大学講師
第5回 9月11日(土) 13:30~15:00	ナイチンゲールの考える環境と看護(介護)	太田 節子 (おたせつこ) 千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センター教授

事前申し込み不要。どなた様も参加できます。

エルダリア・スクール サクセスフル・エイジングへの挑戦

開催日時(平成16年)	テーマ	講師
第1回 10月2日(土) 13:00~15:00	健康長寿への第一歩は食事から	渡邊 令子 (わたなべれいこ) 新潟県立女子短期大学生活科学科食物栄養専攻教授
第2回 10月9日(土) 13:00~15:00	長寿社会の工学技術	村上 肇 (むらかみはじめ) 新潟工科大学情報電子工学科教授
第3回 10月16日(土) 13:00~15:00	高齢疾患の医療と介護・福祉・健康維持	寺島正二郎 (てらしましょうじろう) 新潟工科大学機械制御システム工学科助教授
第4回 10月23日(土) 13:00~15:00	健やかな毎日を送るための健康管理	田中キミ子 (たなかきみこ) 新潟県立看護大学教授
第5回 10月30日(土) 13:00~15:00	楽しい体力維持の戦略	林 従子 (はやしよこ) 日本トランポピクス協会新潟県支部長 澁谷 房子 (しぶやふさこ) 日本トランポピクス協会新潟県支部常任理事
第6回 11月6日(土) 13:00~15:00	まちづくりとユニバーサルデザイン	飯野 秋成 (いいのあきなる) 新潟工科大学建築学科教授
第7回 11月13日(土) 13:00~15:00	物忘れをふせく戦略	北川 公子 (きたがわきみこ) 新潟県立看護大学助教授
第8回 11月27日(土) 13:00~15:00	もしもに備えて~介護が必要になったとき	中島紀恵子 (なかしまきえこ) 新潟県立看護大学学長

■いずれも本学にて開催します。

問い合わせ先
教務学生課 教務係
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail kyoumu@niigata-cn.ac.jp

平成16年9月24日(金)までに、電話、FAX、E-mailのいずれかで、事前申し込みしてください。氏名、年齢、性別、電話番号、住所、参加人数をお知らせください。定員は50名で、8回全て参加可能な方を優先し申し込み順に受け付けます。70歳以上の方大歓迎です。

編集後記

第3期生を迎え、校舎のいたるところに学生の気配を感じるようになりました。新年度、3年生はPBLチュートリアル学習に挑戦し、力のあるグループダイナミクスを発揮しています。2年生は、3年生から自治会を引き継ぎ、大学の学生生活の中心を担うようになりました。そして1年生は、新しい講義や実習のシャワーを浴び、自立的に学ぶ方法を探っています。

このような学生のパワーと成長に負けないように、教員の教育・研究・研修活動、及び大学の諸設備も少しずつ充実してきました。今号では、その紹介に多くの紙面を割きました。その分、学生生活の情報が少なくなりましたが、「様々な整備の進展の中心に学生がいる」と、ご理解いただければ幸いです。
[広報委員会 橋本明浩・北川公子]



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

広報委員会

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

R70
古紙配合率70%、
白色度70%の再生紙を
使用しています。